

授業科目名 <英訳>	京都創造論 Theories for the future development of Kyoto region		担当者所属 職名・氏名	教育学研究科 教授 高見 茂 教育学研究科 准教授 服部 憲児 学際融合教育研究推進センター 特定講師 柴 恭史 学際融合教育研究推進センター 特定助教 中島 悠介			
群	キャリア形成科目群	分野(分類)	C O C O L O 域		使用言語	日本語	
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2016・前期	曜時限	水2	配当学年	主として1・2年生	対象学生	全学向

#### [授業の概要・目的]

大学の持つ教育・研究機能は、地域社会の振興・発展に重要な役割を持つ。たとえばオックスフォード大学は、その教育・研究を通じて地元都市の文化、経済、環境、初等・中等教育等を支える重要なアクターとして機能し、グローバルであると同時にローカルな大学でもある。「京都の未来を考える懇話会」は、30年後の京都の「ありたい姿」(ビジョン)として「世界交流首都・京都を提案し、そしてそれを支える3本柱の1つに「大学のまち・京都」を掲げた。大学と都市はいまや一体的関係にあり、本学もまたオックスフォード大学と同様に、地域の文化、産業、環境、教育等に関する知の拠点であることが求められている。本講義では、世界の主要大学と地域社会の関係を文化、産業、環境、教育等の側面から検討し、大学はその教育・研究機能を通してどのように地域開発・振興に貢献しているかを分かり易く解説する。そしてこれを踏まえて、本学を核とする京都の大学群が、京都の文化、産業、環境、教育振興、地域格差、政治・行政等の課題解決にどのように貢献しているのかを学ぶ。京都という独特な土地柄(日本文化、伝統、歴史、芸術、地域格差の集積地)で地域のことを学ぶことは、日本全国の地域課題を学ぶことであり、またグローバル人材として必要な素地も獲得することができる。大学と地域課題の学びを通して、京都というローカルな視点とグローバルな視点を併せ持つグローバル視点の重要性を体得させ、京都から世界に羽ばたく複眼的思考のできる人材の育成を試みたい。

本授業は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(京都学教育プログラム)の一環として開講されるものである。その目的は、単に京都に関する事柄を学ぶのではなく、京都が抱える諸課題を手掛かりに、わが国や世界の未来を想像(創造)できるための基礎を培うことにある。

本授業は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」(京都学教育プログラム)における「まなびよし」として開講されるものである。

#### [到達目標]

講義およびゲストスピーカーによる講演、京都の抱える課題についての調査を通じて、以下の能力を養うことを目指す。

- (1)責任力: 自らが京都のあるべき未来像を創造し、実現する責任を担う一主体であるに自覚的である態度。
- (2)俯瞰力: 京都が抱える現実課題、あるいはこれまで実施されてきた地域志向の取組を、長期展望とグローバルな広い視野、俯瞰的視野のもとで捉え直す力。
- (3)創造力: 俯瞰的に捉えた課題に対して、本学が有する先進的「知」を活用しつつ、京都の新たな未来像、新たな課題解決方策を創出できる力。
- (4)現場力: 創出された新たな未来像、新たな課題解決方策を、資源が限られた条件のもとで実行可能な形で確実に実現させる実務能力。
- (5)協働力: 新たな未来像、新たな課題解決方策の創出に向けて学生同士、教員、京都地域関係者と共に議論し、また創出された方策等を学生同士、教員、京都地域関係者と協力して実現する力。

## 京都創造論(2)

### [授業計画と内容]

京都が抱える諸課題を現実の声を通して学ぶために、「京都の未来を考える懇話会」の構成員（山田啓二京都府知事、門川大作京都市長、本学松本前総長、立石義雄京都商工会議所会頭、柏原康夫京都府・京都市観光協会会長、池坊由紀華道家元池坊次期家元、白石方一京都新聞社主）や京都各地域で活躍する方々をゲストスピーカーとして招聘し、一部講義を行う。

- 1) オリエンテーション、大学COC事業の趣旨
- 2) 我が国の大学改革と地域創生
- 3) 京都ビジョン2040と大学の地域連携
- 4) 諸外国における大学の地域連携
- 5) 「明日の京都」から見る京都府の公共政策と課題
- 6) 京都市の公共政策と課題
- 7) 京都地域の地域格差 - 南北問題
- 8) 京都の伝統産業における現代的課題
- 9) 京都の産業振興 - 産学連携（京都大学の貢献：ベンチャー企業から世界的企業へ）
- 10) 京都の観光産業
- 11) 京都の文化・芸術
- 12) 京都の食
- 13) 京都の科学・教育
- 14) 地域課題と大学の貢献 - 国内他地域事例との比較
- 15) まとめ

### [履修要件]

特になし

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

出席状況およびレポート試験の結果を総合的（平常点3割程度、レポート試験7割程度）に判断して評定を行う。

なお、ゲストスピーカーが講演を行う回については、出席確認の代わりとして簡単な感想文の提出を行う。

### [教科書]

授業中にテキスト、資料等を配付する。

### [参考書等]

（参考書）

京都の文化、産業、環境、教育振興、地域格差、政治・行政等の課題に応じて適宜、授業中に紹介する。

### [授業外学習（予習・復習）等]

授業ごとに指示を行う。

一昨年度は授業外でグループワークを行うように指示をしたが、今年度はグループワークについては授業内だけで行い、授業外での作業は個人で行えるもののみとする。

### [その他（オフィスアワー等）]

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

また、担当教員の連絡先や、細かな予定については授業ごとにその都度連絡をします。